

TAKUの 我行我素

いつもみんなありがとう！



さて、いつの間にかにもう7月ということですね。ということは、(つい先日、約半年ぶりでライブしてきましたが…@長崎)なんと今年前半、銀蠅のライブがほとんどなかったということになります(笑) ちょうどいい機会なのでこの間俺は、バンドにとって、ライブとは一体何なのであろうか?みたいなコトもよく考えていたんですが、あ てゆかそれちょっと違うか… 銀蠅のような、すでにキャリアが36年のバンド、もちろんアルバムやシングルリリースも毎年あるわけではない、メンバー平均年齢約58歳のバンドの、今後のライブ活動の意義や目的や、やり方について色々と思いをめぐらせていたってことかな うん。簡単に言えば、いつまでもカッコイイバンドでいるには?ってことなんだけど、ぶっちゃけて言うのならば、俺はね、“昔の名前で出ています”的な、懐メロのドサ回りのようなバンドになるのは絶対にやなんだよ。そんな仕事は、嵐さんが70歳超えた頃くらいから、みんなで道楽でやれば全然いいと思ってる。俺が65歳、翔くんが67歳あ

たりの頃ね(笑)

てことはまだまだ早いでしょやっぱ。



結局それってのは、「バンドの現役感ってのは何だ?」って話になるんだけど、俺が思ってるのは、“進歩”“向上”、そしてベテランなりの“円熟”ってキーワードかな。“初心を忘れず”ではない。「オレらはまだまだイクぜ!」的な、単純な威勢のよさでもないと思うし、「あの頃の自分には負けないぜ!」的な、勝ち負けの話でも絶対ないと思っている。ついてきてくれているみんなだって、もういい大人になってるんだから、俺達がいままで相変わらずだったり、あんま何も考えてないようなコトばっかや、その場の上辺だけの間に合わせでモノ言っていたりしたら、いいかげん底を見切って、愛想つかすと思うし(笑)



要はもう、それなりの“質”や“格”が必要なんだって話だと思うよ。

バンドとしてはもちろん、メンバー一人一人の人間としての“質”や“格”。そして楽曲や演奏の“質”や“格”。その志の“質”や“格”。かもし出す雰囲気の“質”や“格”。まあそゆ件は、年齢が上がればそれにともなって向上するってコトではないですからね。意識と努力と経験と反省と環境と、もって生まれた資質がいる。

てか、意外に一番大事だったりするのが、誰も言ってくれないような、言いにくいコトも言ってくれるパートナーの存在だったりもするね。もうこの年齢・キャリアになってくると、実際、現場では誰も何も言ってくれないっていうか、それはダメだろって注意してくれる人がいなくなってきましたからね。気をつけてないとすぐ“裸の王様”になってしまう。本当に自分に自信があれば、同時に謙虚にもなれるはずだから、ベテランの安手のプライドは、一番タチ悪い(笑) それには常日頃ホント注意してよと思ってます。



それと目下、個人的なテーマは、ズバリ“そぎ落とし”です。というのは、実は俺は、良くも悪くもとても器用な人間なんです。どんなことでも、大概そつなくできてしまう。なので今までわりと、あれもこれもという全方位型のマルチな志向でアンテナ広げていたんですが、もうそろそろそれぢゃつまんないなと… まあ例えて言うならば、尊敬する藤岡弘、先生のように、一杯のコーヒーを入れるのに30分かけるようなそんな男でいたいなと… なので、濃厚で味わい深い人生の為に、毎日40分2000回のスワイショウにせっせと励んでいます。合掌

TAKU